

青葉区における見守り事業

日常的な見守りに
つなげる

青葉ふれあい見守り事業



目的

主に高齢者の日常的な見守りをする。

内容

月に1回程度の定期的な訪問・見守りをする。

日常的な
見守りに
つなげる

あおば災害ネット (災害時要援護者支援事業)



目的

災害発生時に要援護者の安否確認や避難誘導が行えるよう、あらかじめ地域でその情報を共有する。

内容

「支えあいカード」作成時と、本人控え及び「あんしん情報ボトル」を渡す時に訪問。年に1回程度は訪問し状況を把握する。

災害時の
支援体制に
つなげる

災害時の支援体制に
つなげる

ひとり暮らし高齢者等「地域で見守り」推進事業 (在宅で75歳以上単身者の状況把握)

目的

行政が保有する高齢者の情報提供を受け、要援護者を効果的に把握し、見守り活動、相談支援につなげる。

内容

対象者を訪問して現状把握を行う。状況に応じて「青葉ふれあい見守り事業」「あおば災害ネット」を紹介する。

わたしたち民生委員・児童委員は、厚生労働大臣に委嘱され担当区域で活動しています。わたしたちには守秘義務があります。



あなたの地区の民生委員を知るには下記
青葉区役所 福祉保健課 運営企画係へ

TEL 045-978-2433

FAX 045-978-2419

わたしたちは、あなたと関係機関をつなぐパイプ役です

◇次のような機関につながります

- ・区役所
- ・社会福祉協議会
- ・地域包括支援センター
- ・児童相談所 など

退任にあたって



民生委員・児童委員として24年、青葉区会長として6年支えてくださった皆さまのおかげで今日を迎えられましたこと、心より感謝しています。そして、毎日の地道な委員活動を続けている委員の皆さま、ありがとうございます。

特にこの3年間は、新型コロナウイルス感染拡大が続き、定例会や研修会など開催できない時期もあり、見守り訪問・サロン開催など民生委員児童委員活動に欠かせない日常活動が制限されるなど、経験したことのない日々が続きました。委員の皆さま特に新任委員の方は活動経験・研修の機

青葉区民生委員児童委員協議会会長 吉村 春美

会も十分でなくご苦勞されたと思います。

区民児協としても、ICT化などに取り組み、会議・研修など情報共有に努めてきました。私たちは、困難な厳しい状況に置かれても各地区また個人で創意工夫を凝らして活動を進め、定例会を分散開催したり、見守り訪問に変えて手紙・電話・メールなどで安否確認をするなど活動を止めたり、あきらめることはありませんでした。

少子高齢化が進み、孤独化や児童虐待など様々な地域での問題が山積しています。今後ますます民生委員・児童委員は、地域での身近な相談相手としての役割が期待されています。

「いつまでも住み続けたい街 青葉」の未来に向かって活動が続いていくことを願っています。

「青葉区民生委員児童委員協議会 地区会長・副会長研修」 8月4日(木) 於：青葉区役所

毎年8月に行われるこの研修は、毎月の委員会では時間的に限られてしまう各地区の情報交換の場になっています。特にこの2～3年のコロナ禍で、今までの地区運営が通用しなくなり苦慮している中では、いいヒントをいただける場にもなっています。

今回は、「コロナ禍を経た後の民生委員活動について」というテーマで事前課題票を各地区副会長が記入しました。地区の規模や新任の人数割合などによっても違いますが、研修に力を入れたり、見守りの方法を工夫したり、LINEを導入したりして活動している様子が伺えました。地域ケアプラザや社会福祉協議会との連携も今まで以上に大事になってきています。民生委員活動の変化への対応・担い手不足・仕事をしながらの委員活動は共通の課題でした。



5名程のグループに分かれての話し合いでは他地区の生の声が聞け、いくら時間があっても足りないくらいでした。

グループ毎の発表の最後に小嶋 優 青葉区副会長が全体をまとめました。できないことを数えるのではなく、できることを楽しくやっていくという前向きな姿勢に、今後の活動に向き合える元気を貰いました。

青葉区副会長 白井 多美子

赤い羽根共同募金



10月1日(土)
たまプラーザ・あざみ野
江田・市が尾・藤が丘、
青葉台・こどもの国
の各駅において



青葉区民まつり 2022

11月3日(祝・木)
於：青葉区役所

3年ぶりの開催です



主任児童委員だより

こどもの心と体を守ろう 第23回講演会 2022.7.6

人生を豊かに育む教育 ～性・体・心の教育～

東京医療保健大学 医療保健学部看護学科教授 わたらいむつこ 渡曾睦子氏

渡曾氏は、性教育を性問題の対処のための教育ではなく、「人間として豊かに生きていくための心の教育」として、全国で子どもたち・保護者・支援者に講演会をされています。人工中絶率が全国3位だった山形県で保健師として、性教育教材の作成と普及などに力を注いだことで、7年後には全国43位まで改善されました。

乳幼児期は、親からの無条件の愛を貰うことにより自己肯定感が養われ、9歳以降は、実体験を通して、役割自覚、責任意識が育ち、思いやりや優しさを獲得して、自己肯定感が得られるようになるそうです。思春期は、本人が心の不安定な時期だという事を認識し、自己肯定感を持って乗り越えることで、豊かな人生を歩むことにもつながる、とおっしゃいます。

自分を大切にするためには自己肯定感が不可欠です。自己肯定感とは、その類義語に、自尊心、自己効力感、自尊感情があります。ありのままの自分を受け止め、自己の否定的な側面も含めて、自分は自分であっても大丈夫という感覚を思春期までに獲得していると良い、とおっしゃいます。

“今の自分を大事にして

将来の自分にチャンスを残す”

氏が、繰り返しおっしゃっていた言葉です。ぜひ、思春期のお子さん達に伝えたい言葉です。

講演の最後に、イライラ・不安・悩みを感じた時の解消方法を教えてくださいました。

〈ストレス勘違い運動〉です。ストレスは無い、と脳に勘違いさせて、乗り越える！というものです。

- ①肩を上げて、腕を曲げ、ぎゅっとゲンコツを握る。
- ②顔をこわばらせ、口はへへの字に曲げ、眉間にしわを寄せ、脳に緊張信号を送る。
- ③ぱっと緊張を解く。肩を下げ、腕も手もだらんとする。
- ④口角と頬を上げ、目は少したれ目にして笑う。

①から④までを5回くり返します。

皆さんも、試してみてください！

(美しが丘地区 久野 直子)

コラム

あおばのかぜ

～80・50問題～

心理カウンセラー明石紀久男氏のセミナー「80代の親と引きこもる50代の子どもの理解について」に参加した。全国で、40～64歳の引きこもり人口は、約62万人(2018年)。現在は、コロナ禍で更に増加傾向にあるとか。家父長制の時代を生きて来た80代の親と、経済成長下で自由に育った50代の子ども。各々の考え方のギャップを埋め合えず、会話の出来ない家族の相談が多いそうである。

親は子どもの話を聞くことから始め、大事にしたい本質を見極める。寛容と包容力で子どもの状況を受け入れ、寄り添い見守ることが大切である。

人とのかかわりを持たず、パソコンやスマホと向き合うだけの日々。「私は独りぼっち」と社会からの疎外感を抱いてしまう人が多いのでは、と私も思う。

以前、引きこもりの息子さんと二人暮らしの70代の母親から相談を受け、支援機関へつないだ。しかしすぐに息子さんがそれを知って激怒し、親子関係が悪化した。「私は元気だから、外出や気分転換をして、様子を見るわ。」とのことばに、私は複雑な思いだった。

昨今は、プライバシー・個人情報保護の観点で深く踏み込めないもどかしさがある。私も担当地域全ての状況を把握できていない。まずは声掛けから始めて、人とのかかわりを大切にしていきたいと思う。

(荏田地区 黒石 エリナ)

引きこもりは、本人や家族だけの問題ではなく社会全体の課題でもあります。

横浜市の引きこもり相談専用ダイヤル

045-752-8400

*本人とご家族が利用できます。

編集後記

今号は、年に1度の自治会町内会回覧号です。地域の皆さまに民生委員・児童委員の活動をお伝えしております。令和4年12月には民生委員・児童委員の一斉改選がありますが、皆さまと関係機関とのパイプ役としてこれからも活動して参りたいと思います。(村上)

広報部代表 村上 希史子

第88号担当 久米田 智子 黒石 エリナ

小島 満壽江 白井 千鶴

中村 久子 前原 由美

矢部 清 山内 サカエ